

第三次小樽市観光基本計画策定委員会(第5回) 会議議事録

日時:2026年6月12日(金)13:00～

場所:小樽市保健所講堂

1. 開会(進行:事務局)

- ・ 小樽市より開会と配布資料の確認を行った。

2. 議事(進行:委員長)

(1) 第4回小樽市観光基本計画策定委員会振り返り【資料1】

- ・ 事務局より【資料1】について、第5次観光立国推進基本計画、第6期北海道観光のくにつくり行動計画の要点の取りまとめや、前回の議事概要・現計画の振り返りについて説明を行った。
- ・ 質疑等なし。

(2) 提言書案について【資料2】

- ・ 事務局より【資料2】について、第三次小樽市観光基本計画提言書案の構成と要点の説明を行った。
- ・ 質疑等なし。

(3) 第三次小樽市観光基本計画の内容に関する意見交換

① 7ページ:推進体制について

- ・ 下部の図式の中で、観光地における一番のステークホルダーである観光客が抜けているので盛り込むべき。
- ・ 本計画は小樽市の計画であり、具体施策の実行に関する計画はDMOの領域であるということが整理されているが、KGI等の目標値についてはDMOとどのような棲み分けになっているか。
 - 2025年3月に改正されたDMOの登録制度に関するガイドラインに基づき、市とDMOで方向性を一致させつつ進めているところである。(事務局)
 - 本計画の策定と連動し、2026年から2027年にかけてDMOの観光地経営戦略を策定する予定である。観光地経営戦略にて、第三次小樽市観光基本計画のKGIに基づいたKPIを設定する。(事務局)

② 14ページ:国内の観光の現状中の図表について

- ・ 図3の凡例について「日帰り旅行宿泊旅行」の表記が誤りのため修正すべき。

- ③ 15-16ページ:道内の観光の現状中の図表について
- ・ グラフの単位について統一(万人・千人)すべき。
- ④ 20ページ:小樽市の課題
- ・ 産業として捉えられるように、観光産業に携わる人のデータを出してはいかがか。全国の観光動向については消費単価等もあるのに対して、小樽市ではそれらの指標がないため、比較が難しい。
 - ・ ナイトタイムエコノミーに関する記載があったが、食についても今後の方向性にもりこんでいただきたい。
- ⑤ 22ページ:小樽観光の目指すべき姿について
- ・ 上部 3 行目の「観光を通じて経済と市民生活の豊かさを高める」について特に賛同する。「真価」という言葉、はスローガンにも使われているキーワードであるが、「真価」が何を指すのかを掘り下げて議論すべきである。
 - ・ 「選ばれるまち」という表現について、選ばれる理由の背景には、小樽らしい暮らしや生活に息づく文化があるのではと考えている。観光客という視点に限らず、市民やこれから移住を考える人々、小樽で創作活動をしている人々に向けて、「関わりたくなるようなまち」という表現も盛り込んでどうか。関係人口創出という意味でも方向性は一致するのではないかと考える。
 - ・ R7年度に改訂された DMO のガイドラインにて「「選択と集中」の考え方に基づき、何に対して人的資源や財源を集中的に割り当てるのか等を明確にすることが重要である。」と示されている。市としては選ばれるという書きぶりで良いが、実行段階では「観光客を選ぶ」という考え方を盛り込むべきではないか。来てほしい来訪者に向けてリソースを割いていただきたい。
 - ・ 小樽に来て何を来訪者に感じていただきたいのか、何を見て頂きたいのか、という点について「真価」という言葉を軸に掘り下げていただきたい。
 - ・ 稼ぐ観光と地域内循環は不可分一体である。単に観光消費額が増えたとしても外へ流出しては意味がない。広域連携も重要である点は認識しているが、観光が地域経済をどれだけ豊かにしているかという視点が重要である。
 - ・ 「真価」という言葉の意味について、歴史的建造物や港町の景観は重要な資源であるが、日本のほかの港町と比較した際に言える独自性を具体的に言語化する必要があると考える。
 - ・ 単に来訪していただくだけではなく、「小樽のファン」となる人を増やし、関係人口の増加、移住・定住、投資へと繋げていく流れを意識した計画にしていきたい。本計画によって、観光や市民、事業者、投資者等が小樽の良さを共有しつつ、小樽を選び続けた結果、小樽の持続的な観光や地域経済の活性化、市民生活の向上が達成さ

れるとよい。

- ・ 「真価」という単語の意味が曖昧である。「真価」という言葉を明確に説明できるようにしていただきたい。また、地域の価値を未来に受け継ぐと記載があるが、具体性にかけるため、補足していただきたい。
- ・ 「真価」という言葉は「人」に軸があると捉えられ、観光を含めたまちづくりにおいては地域をけん引する人材の存在が重要である。そうした人に焦点を当てた書き方も盛り込んでどうか。
- ・ 「真価」を掘り下げることが重要と考える。未来に向けた意味合いが弱く感じている。また、観光客、市民、事業者には選ばれるまちとあるが、事業者を深掘りすると、人口減少の問題を背景として、従業員に焦点を当てる事が重要であり、従業員に選ばれるようなまちにすべきであるとする。

⑥ 23ページ:成果目標(KGI)の設定

- ・ 市民やクリエイターが地域の文化活動に主体的に関わった割合や、歴史に関する取組の稼働率も盛り込んではいかがか。
- ・ 住民満足度について、2024年から道全体の住民満足度を測定している。昨年度は51.3%、今年度は50.1%となっていて参考とされたい。年間観光消費額について、目標値は道内で約1.5兆円。札幌は約6900億円、小樽は約1000億円であり、北海道の約半分を札幌と小樽で達成している。そのようなデータも参照しつつKGIを定めていただきたい。
- ・ 北海道庁で設定しているKPIのひとつとして観光従事者の満足度を設定しており、観光業界への継続就業意向がある人の割合を70%以上とすることが目標として定めている。
- ・ 住民満足度(市民のQOL向上と観光への理解)は多様な要素に影響されているため、指標を分解し、市民のQOL向上と観光への市民理解は別個の指標でも良いのでは無いか。
 - 第三次小樽市観光基本計画では大きな重要目標として位置づけられているKGIを設定する。KGIの数は柱となる1~2項目程度とすることが適切であると考えており、KGIに基づく具体的な指標であるKPIはDMOの観光地経営戦略にて定める予定。本日意見いただいたKGI案については、KPIに盛り込む可能性も含めて検討する。(事務局)
- ・ 宿泊施設数や飲食店数の目標設定などの具体的な目標は、年間の観光消費額によって大きく変わるため、年間の観光消費額についてはKGIとして最重要と考える。

⑦ 24ページ:小樽観光の方向性について

- ・ 経済的な豊かさと市民の質がともに向上するという点はぜひ残していただきたい。

- ・ 取組方針①、③については、札幌からの日帰り客等の既存顧客も大事にしつつ、富裕層等の新規顧客を強化し、来訪者を多層化させ、夜間滞在と昼間滞在の両立等を進めていくべきである。
- ・ 取組方針②について、3つの日本遺産を活用して地域を発展させていくべきであり、日本遺産そのものが「真価」の説明にもなるのではないか。
- ・ 取組方針④について、後志の観光資源としての雪を強調して記載いただきたい。
- ・ 取組方針⑤について、投資対象として選ばれることを目指すべきと考える。記載が及び腰になっていると感じ取れるので、「規制緩和を進める」など、投資を積極的に呼び込む姿勢を力強く記載いただきたい。

⑧ 25ページ:小樽観光の方向性について

- ・ 新千歳空港等のインフラの強化や、災害対策面は重要と考える。

⑨ 26 ページ:小樽観光の方向性について「小樽の日常と調和する」

- ・ 本計画においては「おもてなし」を重要なキーワードとして位置づけるべきと考えるとともに、オーバーツーリズムについては、計画期間終了時(10 年後)を見据え、「オーバーツーリズム」という文言を継続して使用するかどうかについて委員会にて検討したい。なお、代替表現としては、「市民の理解の促進」や「観光客と市民生活の調和」といった文言を用いることも有効ではないかと考える。
- ・ 宿泊税について、市民からは遠い存在であると捉えられやすいが、観光客の利便性の向上のみならず、市民への還元も行われていることを見えるような仕組みづくりが重要であると感じている。宿泊税を小樽の未来への投資として市民が実感できる仕組みづくりが重要と考える。
- ・ 次世代に向けたシビックプライド醸成の取組は既に行われているが、現在、小樽に住み働いている現役世代に対する、シビックプライド醸成に関する視点も必要であると考える。また、物価上昇について、市民からは物価の高いまちとして認識されてしまい、住みづらさや働きづらさを演出してしまっていると考え。企業努力のほか、市からの情報発信によってより生活しやすいまちを作っていきたい。

⑩ 総論、その他

- ・ 過去の計画との比較も踏まえ、継続すべき事項については守るべき価値として整理し、「観光地化しすぎない」という価値観を重視するとともに、変更していく事項については挑戦すべき内容と捉えるべきであり、10 年スパンの計画であることを踏まえ世界的な視野を取り入れつつ、歴史的な港湾のネットワークの活用なども検討したい。また、小樽に新たな観光地を創出するという発想ではなく、小樽の文化や暮らしを観光の力でつなげていくという考え方のもとで計画案を作成したい。

- ・ 感染症や自然災害を含む、観光危機管理と、環境問題に配慮した姿勢に関する記載も盛り込んでいただきたい。
- ・ 雪については、海を見ながらスキーをすることができるのは世界でも稀な場所であるので PR すべきである。
- ・ 10 年後・20 年後の小樽観光を見据え、ターゲット設定が重要であり、量から質への転換の観点から欧米の歴史・文化志向の層は有力な対象となり得る。一方で、グローバルな市場動向では東アジアが縮小する可能性があるのに対し、東南アジアは人口増加を背景に成長が見込まれることから、ターゲットの絞り込みと併せてマーケット規模の視点も踏まえた検討が必要である。
- ・ 小樽運河や余市、積丹などの景観資源を活かし、絵を描く体験プログラムの造成は有効ではないかと考える。画材の運搬や準備といった参加時の負担を解消することで、参加のハードルを下げるとともに、絵の上手い住民が多いという地域特性も活かしながら、来訪者に「小樽の活動に参加している」という実感を提供できる点に意義がある。
- ・ フィルムコミッションの誘致活動も重要であり、単にロケ地を訪れるだけでなく、撮影段階からキャストとして出演者を募集する仕組みを取り入れるとともに、インフルエンサーや YouTuber 等の参画を促すことで情報発信力の向上を図ることが可能であり、それにより小樽を訪れる動機の多様化にもつながるのではないかと考える。
- ・ 夜の観光について、2025年に小樽青年会議所が水天宮にて実施したライトアップイベントは目的意識向上として機能したと認識している。イベント時に限らず年間を通じて目的を持って来訪してもらえらる取組が必要と考える。

3. 閉会

- ・ 議事録については清書して1週間程度で委員へ共有を行う。内容に関する意見がある場合は連絡いただきたい。
- ・ 本日頂いたご意見を取りまとめ、次回委員会までに提言書(第2版)を作成する。なお、委員への事前共有は、委員会開催の5日前を予定する。第6回委員会では、第2版を中心に議論を行い、開催日時は7月10日(金)13時より、保健所講堂にて実施予定である。

<配布資料>

- 会議次第
- 座席表
- 委員名簿
- 【資料1】第三次小樽市観光基本計画策定委員会(第4回)議事概要

➤ 【資料2】第三次小樽市観光基本計画提言書案

<出席者>

委員名簿の通り